

当事務所（はるか）退職後、複数事務所を経て、ご自分の事務所を設立された弁理士の方にインタビューしました。

お話を伺ったのは・・・

そらおと国際特許事務所 代表弁理士 黒瀬 泰之 先生

(<https://soraoto.tokyo/>)

今だからこそ感じることを、ざっくばらんに話していただきました。



Q1 そもそもなぜ、弁理士を目指されたのでしょうか。

私が弁理士を目指すとしたのはNTT ドコモにいるときです。弁理士としての実務を始める前には、NTT ドコモに6年9カ月間在籍し、交換機の維持管理・仕様策定・問題処理や、モバイルマルチメディアの企画に携わっていました。NTT ドコモ社員は、技術についてはユーザの立場であり、自分で何かを作るということはありません。

NTT ドコモにいる間、自分の担当している交換機がどうやって動いているのか、モバイルマルチメディアサービスが技術的にどうやって実現されているのか、すごく知りたいと常々思っていました。

もちろん、教科書的なことは結構勉強しまして、今私が IT 系を名乗っているのはそのときの蓄積があるからです。でも、教科書に載っているのは枯れた技術であって、いま実現しようとしている最新の技術のことは載っていません。交換機の技術はブラックボックスですし、会議に出てくる資料を見ても、サービスを実現するために使っている技術の細かいところは全く載ってなくて、大まかな構成図とか、サービスのメリットとか、事業計画とかそんなことしか載っていないわけです。勿論、それらが重要なことは頭では分かっていますが、実は私が知りたいところはそんなことではなくて、サービスにかかる技術の具体的な内容なわけです。

そんな感じでずっとモヤモヤしていて、それならば、と思って転職を考えて色々探してみたところ、最新も最新、企業がまだ秘密にしている技術にいち早く関わることのできる仕事を見つけました。それが弁理士というわけです。

弁理士をしていると、出願前に発明者と面談することになります。その面談では、本当に細かく、根掘り葉掘り発明の内容を聞いていいのです。聞かなきゃ明細書を書けませんから。発明者の方も、ちゃんと質問に答えてくれます。外部の人間で、技術開発の中核にいる方に技術内容を根掘り葉掘り聞ける商売なんて、他にないと思います。私にピッタリの商売に巡り会ったと思っています。

Q2 未経験ではるかに入所されましたが、はるかに入ってよかったと思うこと、はるかでの仕事で得たことや学んだことはありますか。

今なお、はるかでの経験が活かされていると思うことはありますか。

知財業界に入り、最初の3年半をはるかで勤務しました。

はるかに入ってよかったことは、岩本先生に鍛えられた点が第一ですね。弁理士になって特許実務を始めて最初に実務を教えてもらったのが岩本先生で本当によかったと思っています。自分が書いた明細書にいっぱいダメ出しされ、悔しい思いをしましたが、よく考える癖を身に着けることができたと思います。

ダメ出しの中には、納得できなかったこともあり、最終的に辞めてしまいましたが、今思えば、当時の自分は、発明の検討も浅かったし、日本語もイマイチだったと思います。はるか退職後、じっくりと仕事に取り組んだ結果、岩本先生に「よく考えろ」と言われた意味を体得することができました。

今では、明細書を書き上げた後、お客様に送る前にどこを見直しすべきか分かるようになりました。分かるようになった時、以前岩本先生からも「他人からの指摘ではなく自分でわからなきゃダメだ」と言われていたことを思い出しました。弁理士になって10数年経った今、岩本先生の言葉を実感しています。

ホームページにも載せていますが、そらおと国際特許事務所では、「無駄な特許を取らせない」「取れる特許を落とさない」この2点をモットーとしています。そして、このうち、「取れる特許を落とさない」ために、特許の明細書には、発明だけでなく、その裏付けとなる技術をしっかりと書くことを重視しています。この自分のスタイルが見つかったのも、最初に厳しく指導してもらったおかげです。

Q3 独立して、ご自身で事務所経営されることの醍醐味と今後の展望を教えてください。

まず、醍醐味ですが、例えば、事務所に勤務していると、時間的な制約があったり、料金設定の自由度が低かったりして、新規のクライアント開拓はなかなか難しいですね。その点、今は、自由に自分の裁量で、新規のクライアントを開拓できることがやりがいになっています。

自分が経営者になってみて分かったのですが、自分に決定権があることは中小企業との付き合いをする中で極めて大事です。自分で責任を持って決定しながら柔軟に対応できるようになったことで、仕事の相手となり得る人が大幅に増えたと思います。

また、事務所に勤務していたときに比べると、格段に人付き合いの幅が広がり、充実しています。

「無駄な特許を取らせない」「取れる特許を落とさない」この2点を大事にしてきたことで、おかげ様で中小企業やスタートアップ企業の方からの依頼も増え、事務所の経営も安定してきました。

今後の課題は、このまま一人でやっても事務所の永続性に欠けるところだと思っています。そらおと国際特許事務所のモットーに共感していただける方と一緒に事務所を拡大していきたいですね。

黒瀬先生、ありがとうございました！

はるかでは、「経験を積んで、いつか独立して自分の事務所を作りたい！」という気概を持った方も応援します。一緒に働くことにご興味をお持ちいただけの方は、ぜひ採用担当までご連絡ください。皆様のご応募をお待ちしております！！

特許業務法人はるか国際特許事務所 recruit@harukapat.jp

EAST オフィス（東京）採用担当：塚越（03-6256-9947）

WEST オフィス（神戸）採用担当：竹沢（078-392-3260）